

サツマイモ 基腐病の発生に注意しましょう！

＼ 疑わしい症状を見つけたらお近くの農業改良普及センターへ ＼

令和7年11月5日（水）にひたちなか市の貯蔵中のイモで本県4例目となるサツマイモ基腐病の発生が確認されました。その後本病は発生ほ場と隣接するほ場において5件、合計6件確認されましたが、それ以降の発生は確認されていません。すでに本病の発生ほ場を含む周辺ほ場では、土壌消毒等防疫措置が実施されています。

令和8年産に向けて本病の侵入・蔓延を防止するため、育苗期における種イモや苗で持ち込まない対策、生育期における増やさない対策が重要です。

定期的に生育状況を確認し、疑わしい症状を見つけたらお近くの農業改良普及センターへご連絡ください。

病 徴



苗床での発生



写真1 巻葉・株の萎縮



写真2 葉が赤変、黄変



本圃での初期発生



写真3 株の基部が暗褐色～黒色



写真4 茎に形成された柄子殻

写真出典：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）
および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）
令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より

防 除 対 策

育苗期：持ち込まない対策

- (1) 種イモは必ず未発生ほ場から採取し、薬剤による消毒（表1）をする。
- (2) 定期的に茎頂培養苗（ウイルスフリー苗やバイオ苗）を導入して種苗を更新する。
- (3) 苗床消毒、および種苗の選別と消毒（表1）を行う。

軽く握って
崩れない程度

① 苗床消毒

土壌消毒剤（ガスタード微粒剤、キルパーなど）で土壌消毒を行う。使用の際は、地温、**土壌水分**など適切な条件下で実施する。薬剤処理後はビニール等で全面被覆※を行い消毒効果を高める。

※ガスタード微粒剤の被覆期間（目安）

地温	15℃	20℃	25℃以上
被覆期間	14～20日	10～14日	7～10日

② 種苗の選別

葉巻や株の萎縮、葉の変色、苗基部の黒変等の疑わしい症状がないか観察し、症状を見つけた場合は処分せず農業改良普及センターへ連絡する。

③ 採苗・苗の消毒

苗を地際から5cm以上離れた部分で切り取り、採苗後速やかに苗消毒を実施する。

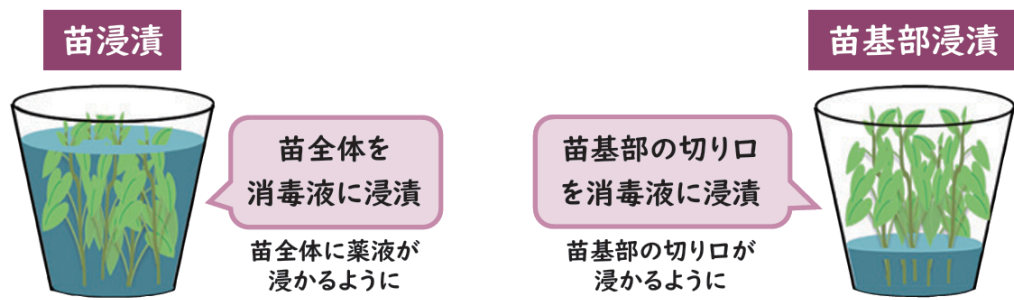
④ 苗床の処分

育苗終了後は、苗床の残渣を育苗ハウスから持ち出し適切に処分する。苗床は耕耘して残渣を分解し、梅雨明け後の高温時太陽熱土壌消毒を行う。

表1：種イモと苗消毒の薬剤

令和8年2月5日現在

	薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用方法	作用機構分類※
種イモ消毒	トップジンM水和剤	貯蔵前～伏せ込み前	200～500倍	30分間採苗用種いも浸漬	I
	ベンレート水和剤	植付前	500～1000倍	30分間苗浸漬	I
	ベンレートT水和剤20	植付前	200倍	30分間苗浸漬	M03、I
	トリフミン水和剤	植付前	500倍	17時間苗基部浸漬	3



**生育期：
増やさない対策**

茎葉が繁茂すると初期症状が見つけにくくなるので生育初期から定期的にほ場を観察する。

(疑わしい症状を見つけた場合は農業改良普及センターへ連絡する)

- ① 排水対策 基腐病は排水不良な場所で蔓延しやすいので表面排水や地下排水を良好にすることが大切である。
- ② ほ場消毒 育苗期の苗床消毒と同じ。
- ③ 薬剤散布 薬剤による予防散布を行う際には、下表を参考に散布する。

表2：使用可能な薬剤の一例（生育期間中）

令和8年2月5日現在

薬剤名	使用時期	希釈倍数	使用方法	作用機構分類※
フロンサイドSC	収穫30日前まで	1000倍	散布	29
アミスター20フロアブル	収穫14日前まで	2000倍	散布	II
		12～32倍	無人航空機による散布	
トリフミン水和剤	収穫前日まで	2000～3000倍	散布	3
		16倍	無人航空機による散布	
ジーファイン水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	NC、M0I
Zボルドー	発病前～発病初期	500倍	散布	M0I
クプロシールド	発病前～発病初期	1000倍	散布	M0I
		32倍	無人航空機による散布	
ICボルドー66D	発病前～発病初期	50倍	散布	M0I
		6倍	無人航空機による散布	
		4倍		
		2倍		

※表1、表2の同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください

表1、表2、図：茨城県農業技術課「総合防除によりサツマイモ基腐病への効果的な対策を！」より

参考文献：生研支援創出強化研究推進事業（01020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）令和センターイノベーション4年度マニュアル「サツマイモ基腐病の発生と防除対策」